

特別助成 東日本大震災の被災者を元気づける事業

「自然と人との繋がりを伝える体験学習」事業

震災後に自然とふれる機会が少なくなった子どもたちが キャンプや体験学習を通じて自然を実感

子どもたちの笑いや歓声が、宮城県・気仙沼湾の豊かな自然のなかにこだまする。すぐそこにありながら、遠くってしまった海を舞台に、遊びを通じて自然の豊かさや人との繋がりを体験的に学べる機会を提供しようと活動を続ける「NPO法人森は海の恋人」。その体験は、未来を担う子どもたちに自然に対する感受性という無形の財産を残す。



気仙沼市内の子どもたちが参加した宿泊型体験学習「子どもキャンプ」。テントに寝泊まりしながら自然の豊かさや偉大さを学ぶ

海を守るために森をつくってきた人たちが 環境教育を主軸に設立

「NPO法人森は海の恋人」は、豊かな自然環境のなかで自然と人のつながりを体験的に学習できる環境教育を主軸に、森づくり、自然環境保全という3分野の事業を中心に活動を展開している。前身は養殖漁場としての豊かな海を支える森をつくらうと、1989年から気仙沼湾に注ぐ大川上流の室根山に植林を続けてきた「牡蠣の森を慕う会」である。法人代表者の畠山重篤さんはそのリーダー格を務めてきた人物で、その活動はマスコミや子どもたちの使う教科書にも取り上げられている。

2011年の東日本大震災は被災地に様々な影響を及ぼしたが、そのひとつとして、「子どもたちが海に近づけにくくなった」と、同法人の副理事長、畠山信さんは話す。その要因には、復興事業として防潮堤や防波堤の建設、沿岸部のかさ上げ工事などが行われ、容易に海に行けなくなっ

たことに加え、津波の記憶や不安感から、親や保護者が子どもたちを海に近づけさせたくないという思いがあると言う。しかし、地域の自然のなかで遊ぶ体験は本来、子どもたちの成長にとって欠かせないものである。

そこで、同法人では、しっかりとした安全管理体制のもと、被災地を中心とした子どもたちに安心して自然とふれあう機会を提供し、「食」や「生活」というテーマを設け、様々な実体験から地域の自然に対する知識や感覚を養ってもらうことを目的とする体験学習に取り組んでいる。また、全国から体験学習や体験観光も受け入れており、このことは、次代を担う子どもたちに森と海の繋がりと自然と人間の生活との繋がりを伝え、豊かな自然環境を後世に残していく意識を植え付けることにも繋がる。さらに、こうした事業に元漁師など、地域住民の協力を得ることで、高齢者の生きがいづくりや地域活性化にも繋げたいとの思いもある。

気仙沼湾の海や森をフィールドにした 子どもたちの宿泊型体験学習「子どもキャンプ」

2016年、AJOSCの助成も活用して実施されたのが、「夏合宿」(8月4～7日、3泊4日)、「秋合宿」(10月8～10日、2泊3日)と呼ばれる宿泊型体験学習「子どもキャンプ」である。どちらもテントでの寝泊まりだが、テントの設営や食事の準備などの生活に関連したことは、子どもたち自身が行う。参加したのは、両合宿とも気仙沼市内を中心とした小学4年生から中学3年生までの15名で、約3倍の申込者のなかから抽選で選ばれた。

この体験学習では、動物・植物プランクトンなどの話を通じて私たちが食物連鎖のなかで生きている存在であること、森と海は有機物を介して物質循環を行っていることなどを学ぶ。

「私たちのところでは、釣った魚は釣ったものがさばくことを原則としています。例えば秋合宿では参加した子どもたちがサバを捕まえ、背開きにして一夜干しにします。そ

れが翌朝の朝ごはんのおかずになります。カツオの解体では必ず胃袋の中を見せ、そのなかにあるものを見て食物連鎖について学びます」

こうした体験を通して、子どもたちは自然の偉大さや豊かさに対する感受性を育むことにもなる。と同時に、年齢の異なる子どもや、スタッフやサポートをしてくれる地域の高齢者などとふれあうことで、社会や地域と主体的にかかわる素地ができる。さらに同法人では、キャンプや体験学習において固定したプログラムを押し付けるのではなく、「子どもたちがやりたいと思ったことをすぐにやれるよう、現場対応力の高いスタッフや用具類の充実などの態勢を整えることに配慮しています。また、安全管理をしっかり行ったうえで、構い過ぎないことも大事」と、畠山信さんは話す。キャンプ後のアンケートに、「また行きたい」という声が多く寄せられるということは、それだけ参加した子どもたちの満足度の高さを物語っている。



気仙沼湾の豊かな海や森をフィールドに体験学習を行う



しっかりとした安全管理体制のもと、子どもたちに自然にふれる機会を提供

助成団体: 特定非営利活動法人 森は海の恋人

<http://www.mori-umi.org>



子どもたちの目つきが変わる瞬間に立ち会えることが喜び

フィールドや用具などは揃っていますが、スタッフの調整や人件費など、資金面での課題はあります。現場の状況に合わせ、フレキシブルに使える今回の助成は大変助かりました。非日常のキャンプや体験学習を通して、参加している子どもたちの目つきが変わる瞬間がある。それを身近で実感でき、スタッフと共有できることがやりがいです。

NPO法人 森は海の恋人
副理事長 畠山信さん